

～「性判別精液」を利用のすゝめ



さて、標題の件につきまして現在当課では後継牛確保の有力手段といたしまして「雌雄産み分け用選別精液（以下性判別精液）」の利用推進を行っております。
つきましては、性判別精液を簡単にご紹介させていただきます。

Q1. 性判別精液って？Sort90、GH-X、T-Xって何が違うの？

A. 性判別精液は、フローサイトメーター（光学的分離装置）を用いて、X染色体を持つ精子（雌）とY染色体を持つ精子（雄）のわずかなDNA含量の差を利用し、分離したものです。受胎すれば約9割の確率でメス子牛が期待できます。

Sort90、GH-X、T-Xとは各AI事業体の性判別精液の呼び名であり、基本的には同じものです。Sort90（家畜改良事業団）、GH-X（ジェネティクス北海道）、T-X（十勝家畜人工授精所）となります。

その他、ABS、野澤組の輸入判別精液も取り扱いしておりますので、ご利用の際には当課までお問合せ下さい。

Q2. 産み分けにはどんなメリットがありますか？

A. 酪農経営という観点から言えばやはり、生乳生産にはメス子牛の生産は不可欠ではありますが、「不慮の事故」による搾乳牛の減少、さらにオスの出生といった確率のイタズラにより搾乳牛の減少を余技なくされる場合もあるかと思えます。しかしながら未だに続いているホルズ初妊牛価格の高値安定から導入するにも勇気が必要です。

このような背景の中、「性判別精液」は数年後の後継牛確保のための手段として計画的な生産をお手伝いいたします。注）但し双産を100%保証するものではありません。

また、メス子牛を生ませることにより、オスの場合よりも分娩難易度は軽いと期待されます。

Q3. 受胎率が悪いって聞いたのですが・・・

A. ずばりそのとおりです。Q1にあるとおり機械的な処理を行なっているため、精子に余計な負荷がかかります。そのため、通常精液よりも受胎率は若干下がる傾向にあります。しかしながら、メス出生率が約90%であることから最終的にメス牛生産効率は性判別精液の方が高くなります。

では、実際に性判別精液がどの程度の受胎率かと言いますと、健康な未経産に授精を行って 約50%、経産牛で30~40%程度と一般的に言われています。

通常精液の都府県における初回受胎率が未経産、経産それぞれ62.6%、47.6%（人工授精実施成績調査集計より）となっていることから、通常精液での受胎率の75%~90%程度と考えて差し支えありません。

しかしながら最終的なメス牛生産頭数は間違いなく上がります。

Q4. でも、お高いのでしょうか？

A. Yes. 生産過程において追加費用がかかることから通常精液よりも高い価格付けとなっておりますが、各AI事業体とも年々、技術・取引本数等の向上を受け、リーズナブルな価格帯になってきております。

取扱い精液につきましては、当課までお気軽にお問合せ下さいませようお願いたします。

上記の実態を踏まえまして当課としましては、より効率よく後継牛を残す手段として、

「13ヶ月以上の健康な未経産牛」

への授精を強く推奨します。

◎雌雄産み分け用精液は生産過程の都合上、生産種雌牛及び生産本数に限度がありますので予めご了承下さい。

様々な種雌牛を取り扱っておりますので、お問合わせの際には本所指導企画課、もしくは各支所までご連絡下さい。